



ぼらんていあ ニュース

あなたらしく。
はじめる、つながる。
きっかけ応援誌！

支える人を支えよう！ 赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン

新型コロナウイルス感染への対応が長期化し、経済的な困難から衣食住が十分に確保できない人、居場所を失い孤立を深めている人など、さまざまな人がさまざまなかたちで課題を抱えています。そのように失いかけている「つながり」を取り戻し、日々の生活を支える活動が全国各地で継続的に展開されるよう、赤い羽根共同募金では「支える人を支えよう！赤い羽根 新型コロナウイルス感染下の福祉活動応援全国キャンペーン」を実施しています。



フードバンク活動

子どもと家族への緊急支援活動

居場所を失った人への緊急支援活動



携帯のカメラで右のQRコードを撮ると、キャンペーンのサイトが開きます。赤い羽根共同募金

サービス介助士 資格取得！

文京ささえ隊ボランティア養成講座 4期目

「おもてなしの心」と「正しい介助技術」を習得し、高齢の方や障害のある方をサポートするなど、日々の暮らしのさまざまな場面で活躍するサービス介助士。その知識と技術を地域で活かして活動する、文京ささえ隊ボランティア養成講座を今年も開講します。

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況に応じて延期あるいは中止となる場合もございます。

11月 募集予定

詳細は、11月発行の「ぼらんていあニュース」冬号でお知らせします。



地域連携ステーション フミコムのどっとフミコムでは、ボランティア情報やワークショップ・イベント、文京区で活動されている団体の紹介など、様々な地域活動の最新情報を見ることができます。気になる情報は、どっとフミコムのサイトでチェックしてみてください！



http://d-fumi.com

ご相談 ください

ボランティアに関心がある方、興味を持った方、
やってみたい！ してほしい 話を聞きたい！

など、ボランティアについての質問や問合せ、ご相談を下記、文京ボランティア支援センターまでご連絡ください。

発行 社会福祉法人 文京区社会福祉協議会 文京ボランティア支援センター http://www.bunsyakyo.or.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-15-14 文京区民センター4階
TEL 03-3812-3114 FAX 03-5800-2966 Eメール vorasen@bunsyakyo.or.jp 開所日 月～金曜日(祝日年末年始除く)
窓口開所時間 8:30 ~ 17:15
ぼらんていあニュースは、封入ボランティアの皆さんのご協力のもと、お届けしています。いつもご協力ありがとうございます。

TOPICS

- 1 点字体験キットで「点字にチャレンジ！」
- 2 学生パントリーのご報告
- 3 「活動できない」を「できる」に変える！
- 4 社会福祉活動緊急助成金について

ご自由にお持ちください TAKE FREE

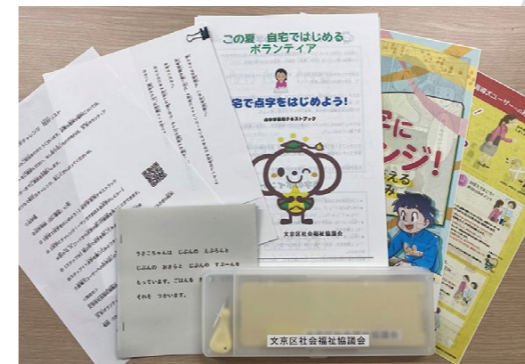
First & Start

自宅で はじめて ボランティア

サークル 六点半会

点字体験キットで「点字にチャレンジ！」

ボランティアを「始めたい」けれど、参加する前にまずは当事者のことを理解できるように学びたい、という声に応えられるよう、対面でのボランティア講習会のかわりに自宅で「初めて」取り組める「点字チャレンジ」体験学習キットを作成しました。



キット作成にあたっては、日頃から区内の小中学校などで、視覚障害のある方の理解を深めるための点字・触図体験講座の実施や、毎号「ぼらんていあニュース」の点訳をご担当くださっている「サークル・六点半会」に全面協力いただきました。

読むことから書くところまで、身近な題材を使ってわかりやすく点字を学習することができます。

学習の成果を、サークル・六点半会の方に添削していただけます。

問題！ はじめてボランティアの前にチャレンジ！

この点字は何と書いてあるでしょうか？



この文字が読めた方は、次に家の中など身近なところにある点字を探して、読んでみて下さい。右のQRコードを読み込むと、はじめての方でもわかりやすいようにマンガ形式の説明が載っているので、参考にしてみてくださいね。

日本点字図書館



点字にチャレンジ！マンガでおぼえる点字のしくみ

Go & Do

施設で ボランティア

福祉施設での軽作業ボランティア募集

障害のある方と一緒に、郵便物の封入・郵送準備などのお手伝いをするボランティアの方を募集しています。

日時 10/8(木)・9(金) 11/5(木)・6(金)・9(月)

各日10時～16時の間
(単日、もしくは午前のみ・午後のみでもご参加いただけます)

場所 文京槐の会 は～と・ぴあ2 小石川4-4-5

新しいことにチャレンジしたいと思う小中学生の皆さん、お子さんやお孫さんに体験させたい方は、ご連絡ください。

文京ボランティア支援センター TEL 03-3812-3114 FAX 03-5800-2966
※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況に応じて延期あるいは中止となる場合もございます。

学生パントリーを実施しました

新型コロナウイルスの影響により、アルバイトがなくなり収入が減るなど、学生生活にもダメージがおよんでいるなかで、お米の寄付をいただきました。生活費が足りず食事などに困っている学生を対象に、そのお米で学生パントリーを実施し、食の寄付と学生をつなげました。

地域の役に立つと
いいなあ。



いただいたお米を区内で必要としている学生にお渡ししながら、あわせて相談会も行いました。



困りごとや気になることを伺いながら、学生に届いていない情報を伝え、必要な支援などにつなげました。そして、学生パントリーを聞きつけて、地域の方がレトルト食品を寄付してくださるなど、支援の輪が広がりました。

寄付は、対面のボランティア活動などが難しい時でも参加できる社会貢献です。寄付に関心のある方、そして今まで寄付したことがない方も検討してみてください。



今回のパントリーは寄付をきっかけとしたものでしたが、気になることや心配なことがあれば、お気軽にご相談ください。また、引き続きご寄付による支援もお待ちしております。

文京ボランティア支援センター TEL 03-3812-3114 FAX 03-5800-2966

令和2年度 ボランティア・市民活動団体等 研修費 助成のご案内

文京ボランティア支援センターでは、文京区で活動するボランティア・市民活動団体等に対し、団体が実施する研修にかかる費用の一部を助成します。

助成対象

- ▶ 団体の専門性をスキルアップ!!
団体企画研修
申請団体が企画・実施し、団体の活動の発展や自立性を促進する内容の研修
- ▶ オンラインをどう導入したらいいの? 活用してみたい! という学びのために
オンライン導入研修
パソコンやスマートフォンを活用したオンライン研修・会議等を開催・受講するための基本的な技術を得るための研修
- ▶ 災害時に活かせる知識を得たい!
防災・減災プログラム研修
文京ボランティア支援センターが指定した防災・減災プログラムを受講

助成対象経費

- ▶ 外部講師謝礼
- ▶ 会場費・機材借上費
- ▶ オンライン研修に必要なツールのライセンス料(月額相当分) など

助成金上限

1団体 **4万円**

助成対象期間

令和3年 **3/31** (水) まで

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインでの研修開催を推奨しています。オンラインでの開催が難しい場合は、文京ボランティア支援センターが定めるガイドラインに沿った環境で実施していただくことを、申請時に確認させていただきます。

※詳細は、文社協 HP <http://www.bunsiyako.or.jp/> または窓口で配布する「研修費助成実施要領」および「研修費助成の手引き」をご覧ください。

文京ボランティア支援センター TEL 03-3812-3114 FAX 03-5800-2966

EYES ON 特集 続 「活動できない」を「できる」に変える!

傾聴ボランティアの会「ぞうの耳」の皆さまの新たな取り組み

前回の取材で、1箇所に集まらなくても活動の方針や計画を決めていける、オンライン会議に挑戦してみた「ぞうの耳」の皆さま。講習会を重ねるにすぎない、メンバーの意識も変わっていったようでした。新しい方法を積極的に取り入れ、活動を続けていくなかで、「傾聴」の本質を見つめ直し、活動の原点にも立ち返るきっかけにもなったようです。

「ぞうの耳」がオンライン会議を試してみようと思ったのは、代表の小塚さんが、新聞やテレビで取り上げられているのを知ったことがきっかけでした。

「ぞうの耳」の活動方針や運営をどうしていくか、メンバー間での相談すらできなくなり、困っていたところでしたし、ちょうど同じタイミングで、「ぞうの耳」のメンバーからもオンライン会議の話が持ち上がったので、まずは役員から挑戦をすることにし、講習会を開催しました。



「ぞうの耳」は高齢者施設へ訪問することで活動を行ってききましたが、3密の状況ができてしまう対面での活動は難しく、さらに利用者との面会ができなくなるなど、活動のありかたを検討せざるをえなくなります。

訪問先施設と話しあいを重ねてきましたが、利用者である高齢の方がパソコンなどを使えない、サポートする施設職員の負担が増える、機材を用意できない、といった問題があることがわかりました。併せて「傾聴」の本質を改めて考えると、今はオンラインで行うことは難しいとの結論になりました。

FOCUS ON

オンラインとは別な方法で活動ができないかと模索し、メンバーのコメントや近況を手紙に書いて、暑中見舞いのように季節ごとに利用者へ送ることにしました。外部講師を招き、季節の折り紙を添えるなど、見て読んで、楽しいお手紙に仕上がったそうです。この手紙のやりとりを20施設で実施するととても好評で、是非続けてほしいと施設からの要望をいただいているそうです。



ですが、やはりどうにかしてメンバーの「生の声」を届けたいというアイデアをもとに、季節ごとに街の様子を撮影した動画を制作、ビデオメッセージとして届ける活動も始まりました。

「ぞうの耳」のビデオ制作がどうなっていくか、ボランティア支援センターは、さらに追いかけていきます。